

A・H MS- 参加レポート(UK ソーシャルビジット)

*SNS などインターネットへの複写 Copy、UP などは禁止しておりますのでご注意ください。

ボランティア(2つの NPO にて経験)

教会のプレイグループでは、Lego Group や Toddler Group のお手伝いをさせていただきました。日本では身近に幼い子どもがおらず子どもへの接し方が正しかったは分かりませんが、とにかく全力で遊び楽しい時間を過ごしました。また、もうすぐイースターの時期だったので、一緒にイースターカードを作ったりもしました。準備や片づけは親御さんや他のボランティアの方と協力して行うため、英語で話す練習にもなりました。

butterfly garden という障害とともに生活している人々がいらっしゃる施設では、皆さんが自身の好きなように過ごされていました。一緒にぬいぐるみを作ったり音楽に合わせて踊ったり散歩したりご飯食べたり食事の片づけをしたりしました。自由な環境だからこそ、施設の方からこれやってあれやってと指示はありません。そのため、自分から一緒にやってもいいですか、お手伝いできることはありませんかなど積極的な姿勢が大切だと学びました。日本で看護を学んでいる私にとって、障害をもつ方と関われる機会また施設職員さんの障害をもつ方との関わり方を見て学べる機会は非常に貴重な経験となりました。



S・Y MS- 参加レポート(UK ソーシャルビジット)

*SNS などインターネットへの複写 Copy、UP などは禁止しておりますのでご注意ください。

* フードバンク NPO 活動

フードバンクでの活動へ参加しました。接客しながらいろんな人と話すことができて楽しかった。
この写真は、フードバンクの後に、カフェになってそこでお茶会が始まった様子です。



* コミュニティーNPO 活動①(レゴクラブ)

教会でのコミュニティー活動へ参加、レゴクラブというレゴをつかって、教会施設内で子供達が遊べる場所を作ることなんて面白いと思った。また、子供達がとても可愛かった。



* コミュニティーNPO 活動②(ティーミーティング)

高齢者グループやユースグループごとに、集まる機会をつくっている活動に参加、何をしても紅茶を飲む？聞かれた。そんな環境は日本にないため、楽しかった。みんなで仕事しながらティータイムも楽しんだ。

Y・O MS- 参加レポート(UK ソーシャルビジット)

*SNS などインターネットへの複写 Copy、UP などは禁止しておりますのでご注意ください。

スープキッチン活動に参加

この日は少し離れたコミュニティセンターに行き、食事を提供するボランティアに参加させていただきました。



この施設は教会と隣接していて、子どもからお年寄りまで様々な年齢層の方が利用していました。基本的にはフードバンクの本部として機能しており、寄付してもらった食材を格安で提供したり、配布して回ったりする活動をしています。

また、ここにはたくさんの子ども服が置いてあり、なんと**無料で持って帰れる**そうです。1週間に1度、スープキッチン（日本でいう炊き出し）の活動を実施して、コミュニティセンターを訪れる方々に食事を振る舞っています。

私は食事の準備・配膳・片付けのお手伝いをさせていただきました。

この日スープキッチンを利用していた方は20名ほど。ベテランボランティアの方が大鍋でスープを作ります。

（プライバシー保護のため、画像はぼかしてあります。）

ボランティアは自分自身が楽しむこと



食べ終わった方からそれぞれのタイミングで帰っていきます。私たちボランティアは1時間くらいかけてお片付けを始めます。

メニューが多い分、お皿の量もとにかく多い。（この活動とは関係ないのですが、イギリスのキッチンにはビルトインの食洗機があります。必ずあるかは分かりませんが、今のところ100%どこにでもあります。）

食洗機を駆使しながら洗い物をして、乾かして、元の場所に戻して・・・を繰り返し、テーブルを拭いて、掃除機をかけてやっと終了しました。

この活動はとにかくとても楽しかったです。ボランティアの方々がとても明るく楽しそうにやっていたということも関係しているかもしれません。どちらかというと、**ボランティアをしているというより「いろいろな方との会話を楽しみながら、ついでに作業をしている」**という感じでした。

彼ら・彼女らを見ていて、自分も楽しめる活動をしていくことは、ボランティアを続けていく上でとても大切だと感じました。もし最初は楽しめなくても、自分自身で楽しめるような工夫を考え続けるべきだと思います。

クラフトクラブに参加！

この日はお年寄りの方のためのクラフトクラブに参加しました。今回の活動も教会で行われ、地域の方々が10名ほど参加していました。

私はお年寄りの方々に折り紙を教えたり、カタカナで自分の名前をどう書くか教えたりしました。

せっくなので漢字を教えることもボランティアの方に提案してみたのですが「漢字を嫌がるお年寄りがいるかもしれない」という理由で断られてしまいました。

他の国で活動をする際には、このように小さなことでも確認することはとても大事だと実感しました。

私たちは良かれと思っても、もし彼らに嫌な思いをさせてしまえば、それはボランティアや社会貢献活動ではなくなってしまいます。

今後は私自身の判断だけで行動しないよう、十分気をつけようと思いました。

折り紙をレクチャー



参加したお年寄りの方々は、とても楽しそうに折り紙に取り組んでくれました！

チャリティショップを訪問

この日は地域のチャリティショップを数軒訪れました。滞在地のチェルトナムに限らず、イギリスにはたくさんのチャリティショップがあります。イギリスのチャリティショップは、お店のオーナーの方以外の店員さんは全てボランティアで、商品は全て寄付で成り立っています。お店の雰囲気はリサイクルショップのような感じでした。

そしてとても良いなと思ったことが、**チャリティショップごとに売り上げが何に使われるのかが明確なこと！**

「がん患者を支援するためのお店」「大人の障害者を支援するためのお店」「終末期の患者さんのため」など、何にどのように役立てられるのかがすぐにわかるようになっていました。

日本ではこのようなチャリティショップは見かけたことがなかったので衝撃でした。

もちろん日本にもこのようなお店が増えれば良いと思いますが、立ち上げるのはとても大変そう。日本の文化に合ったチャリティの方法を考えていくことが持続可能性の面からも大切だと思うので、今後そういったことにも取り組んでいきたいなと思いました。

チャリティショップはどのお店もとても賑わっていて、寄付をしに来ている人も多くいました。この時はホストマザーが記念にと、ピーターラビットの絵本を買ってくれました。嬉しい！





このチャリティショップの仕組みとお店の数の多さから、イギリスでの助け合い精神の浸透度が伺えたのですが、チャリティショップ以外にも街の中には「寄付」「フードバンク」「ボランティア」などの文字が多く見られます。期間限定でしたが、子どもは何でも食べ放題というイベントをやっているお店もありました。これはイギリスの人々にとって当たり前の風景だそうです。

また、イギリスでは電動車椅子を使っているお年寄りの方を多く見かけます。日本だと手押し車や杖を使う方をよく見かけますが、イギリスでは圧倒的に電動車椅子の方が多いです。ちなみに、自治体などからレンタルできるとのことです。

移動の制限などはあるそうですが、圧倒的に楽なのだと思います。そして、**どんなタイプの施設にも車椅子を使う方のためのエレベーターがある**ことが多いです。このようなバリアフリーの面からもイギリスの人々の価値観が伺えます。

Baby and toddler Groupsに参加



到着翌日から、地域子ども達に遊ぶ場所などを提供するボランティア活動に参加させていただきました。
5、6人のボランティアの方々が見守る中、地域の教会の中で行われ、20人ほどの子どもたちとその保護者の方が訪れていました。

（プライバシー保護のため、画像はぼかしてあります）

子どもたちは様々な種類のおもちゃに大興奮！滑り台や砂遊び、人形遊びなどを楽しんでいました。私も一緒になって遊びました！

また、遊んでいる子どもたちに時々声をかけて、お菓子や飲み物を配ったりもしました。

最後は全員で歌を歌いました。ギターで伴奏をしているのは、開催場所の教会の牧師さん！

というのも、今回の活動は牧師さんとその奥さんが主体となっていて行っているものでした。子どもたちは帰り際に彼らからシールをもらってとても嬉しそうでした。

ボランティアの方々に、なぜこの活動をしているのか尋ねたところ「**自分の子どもが小さい頃にこのような活動にお世話になったから**」という回答がとても多かったです。